会報 安曇野教育

第65号

発行所　安曇野市教育会　　発行日　令和元年 11 月 29 日
発行人　坂　槙　邦　章　　題　字　川　田　　殖
編　集　会 報 委 員 会

「人の世に三智がある」

常任副委員長
丸山　広樹

木曽の学校には「三智」の碑文が伝わっている。「人の世に三智がある。学んで得る智、人と交わって得る智、自らの体験によって得る智がそれである」。島崎藤村が残した一文が刻まれたものだ。

上松町の旧荻原小学校にある石碑の拓本が広まっているそうなのだが、実はそもそもは大桑中学校の玄関前にある石碑がもとであり、その顛末が平成五年に発行された「木曽教育」第六十八号（木曽教育会刊）に記されている。昭和四十六年度、大桑中学校の卒業記念として永く思い出になるものをと考えた生徒たちは、木曽になじみ深い島崎藤村の言葉を石碑に残そうとしたそうだ。近くの河原で碑文を刻む石を見つけ石材店で刻んでもらったこと、元々は「島崎生」と書かれていたものを「藤村」と置き換えたところ、当時は拡大縮小のできるコピー機がなく、「藤村」の文字が本文よりも幾分大きくなってしまったことなど、制作時の細かい経緯が書かれており、ご苦労された様子が目に浮かんでくる。

「学んで得る智」とは、自ら求めて学ぶことこそが人の成長には大切であるということだろう。「人と交わって得る智」は、多くの人とかかわり合って他人の考え方も取り込んで学ぶことが必要であり、「自らの体験によって得る智」は、実際に体験して得ることが大切だということを、藤村は教えてくれているように思う。

これには続きがある。「そういう自分は今日に行き詰まっているばかりでなく、出発のそもそもからすでに行き詰まっていた。でも、歩いて出るたびに道が開けた。地に触れるたびに活き返った。」と続く。この後半の文も奥深い。私たちは、うまくいかない時、人やものとの出会いで道が開けたり再起したりすることがある。そういった様々な経験を通して、人は「智」を得ていくのではないだろうか。これからも、自ら学び続け、人との交わりや体験を大事にしていきたい。

安曇野の子どもを語る会

十月五日(土)、南安曇教育文化会館で「安曇野の子どもを語る会」が開かれた。

安曇野市教育長の橋渡勝也先生は、「子どもたちの安心安全を広い意味でとらえ、平和で人権が守られることと考える。安曇野市の小学校では、オーストリアのカヌー選手と交流をしている。グローバルな視野を持ち、自ら情報を集め積極的に発言できるたくましい子どもたちになってほしい。そのために地域の方とよい話し合いができるといい」と話された。

次に、早川正美常任委員が基調提案を行った。昨今子どもの命に関わる事案の多い中、本年度の討議の柱を「地域・学校・家庭で守る子どもの安心安全」～安曇野の子どもを三者が連携してどう守るか～に設定した。

地域・学校・家庭で様々に連携し、子どもの安全を確保しなければならないが、隙間を狙って悲惨な事件事故が起きている。学校だけでは守りきれない。私たち大人が確実に連携をとり、最大限に子どもの安全を確保していく必要があると話した。安曇野市内関係機関の取り組みの現状について、子ども自身に危険予測・回避能力を身につけさせるための、通学路安全マップの作成や防犯訓練などの実践的な安全教育、家庭との連携を深めるための引渡し訓練や緊急連絡網（オクレンジャー）の整備、地域ぐるみで子どもの安全を守るための、子どもを守る安心の家やウォーキングパトロール隊などの環境整備、さらに安曇野市少年警察ボランティア協会などの警察との連携を紹介した。これらの活動を通して、地域のタイムリーな情報共有、見守りをする方の安全確保、学校・地域・家庭と諸機関の連携、協働による持続可能な体制構築の必要性が見えたと提言した。

分散会では、①各校・各地域でどのような活動や取り組みを進めているか、その成果と課題は何か、②地域で守る子どもの安心安全について、今後、安曇野市内で諸機関と連携してどのような取り組みをしていくことができるか、の二点について話し合われた。

全体会では、坂槙邦章会長が「子どもの安全を守るためには地域の協力体制づくりが大切」と話し、「地域が手をとりあってコミュニティ力を高めることが、安曇野の子どもたちの健全な育成につながると確信した」と会をまとめた。

各分散会の様子

各分散会では、学校・家庭・地域・諸機関それぞれの立場からの活動やその成果と課題の報告と、諸機関と連携してできることについてのグループ討議が行われた。

【第一分散会】

小・中学校では防災訓練、引き渡し訓練、青パト、スマホやＳＮＳでの犯罪防止のための学習会等の活動と課題や、高校からは、数年後、地域に出て行く高校生には、人を守る安全な社会を作る後継者の一人であるということを意識した教育をしていかなければならない等の話が出された。また、地域の方からは、有事の際の防犯ブザーや安心の家の有効性、オクレンジャーでの、よりタイムリーな連絡の発信等への願いも出された。

グループ討議では、課題をふまえつつ、これから安曇野市内で諸機関と連携して取り組んでいきたい活動について話し合われた。

「自分を守るための道具の使い方を学ぶ活動」「地域サポート隊づくり」「中・高校生の若い力の活用」「家庭での通学路の安全やネットルール等について話し合い、それを学校や地域に広げること」等、子どもの安心・安全につながる具体的な活動がみえてきた。

【第二分散会】

学校からは、様々な方のサポートを受けての見守り活動、身の守り方を学ぶＣＡＰ講演会、学校に常に地域の方が入っている状況づくりなどが紹介された。保護者からは、青パト巡回などパトロールの現状やオクレンジャーでの不審者情報に関心が高いことが話された。育成会からは危険を予知する力をつけるための地区行事での刃物作業体験や新しく住人になられた方とのコミュニケーションづくりなどが紹介された。警察ボランティアからは安全マップの作成や大人も含めたリーダーの育成ができていない状況が報告された。

課題として出された、パトロール方法の見直しや負担の軽減、子どもが危険を予測する力を育てるための体験の不足、地域のコミュニティづくりを柱にしてグループ討議を行った。青パトへの企業協賛、学校・家庭・地域の役割の明確化、行政の専門部署の設立などが提案された。

【第三分散会】

各学校では引き渡し訓練や交通安全教室などの取り組みがされている。ＰＴＡでは、パトロールや登下校の見守りが行われていることが分かった。一方で、こども園・小中学校・高校・児童館・保護者間で情報が共有されていないことや、保護者のＰＴＡ活動への参加が強制できないという問題点も出された。地域の方たちも子どもたちの安全を守ろうと積極的に関わってくださっていることが再確認され、また学校・保護者・地域それぞれが連携や協力をしていく必要性を互いに認識できた。

グループ討議では、少人数で活発に意見交換が行われた。その中で地域の防災訓練に進んで参加をするべき、地域の方に学校やこども園に積極的に来ていただくこと、関係機関との情報の共有や下校時に見守ってくださる方を増員してほしいといった意見が出された。地域があってこその学校であることを再認識し、それぞれの立場で地域に出ていく必要があること、そして子どもたち自身が自分で命を守る行動がとれる力を育てていくべきだとまとめられた。

【第四分散会】

「こどもを守る安心の家」については、民生委員の働きかけで四軒増えたが、親としてどの家か分からないことや、警察では、市・教育委員会と警察で点検し、状況を確認している最中であると報告があった。また、地域ボランティアが高齢化するなど新規の方の加入が難しい現状があるなどの課題があげられた。

グループ討議では、ボランティア確保が難しいのであれば、予算化することも手立ての一つ。ボランティア登録名簿を整備する。通学路を知らない地域の方もいるため通学路の安全マップも公開配付が必要ではないかなど様々な意見が出された。

安全を守るためには、学校と地域との連携や互いのコミュニティづくりが大事な役割を果たしていくことを再認識した。

【第五分散会】

学校での取り組みでは、交通安全教室、避難訓練、引き渡し訓練、集団下校等の活動が報告された。

ＰＴＡの方からは地域でのあいさつで顔を覚えてもらうことの重要性や「いってらっしゃい」の一言の大切さが話題になった。また、夏の暑さ対策や集団下校、スマートフォンの使用方法など、多様化する危険性にどう対応するかが課題だと分かった。

グループ討議では、公民館への集団下校をし、防災食の確認や防災訓練をするなど、学校と公民館とで連携し、防災活動を行うことについて多くの意見が出された。また、「安心の家」の場所を実際に確認したり、安全マップを作り直すこと、企業へ協力を呼びかけて交通安全や防犯に協力してもらうことなど、具体的な内容が多く提案された。今後も継続して地域と学校で協力し合い、子供たちの成長を見守っていきたいとまとめられた。

安曇野往来

豊かな地域に支えられ

小谷村立小谷小学校
校長　松尾　修

心理的距離と物理的距離は得てして異なる。単身赴任で金帰日来の生活ですが、赴任して日を追うごとに安曇野から小谷村へ向かう道のりが短く感じられます。

本校は開校して十四年目を迎える新しい学校です。開校当時の地域や保護者の強い願いを背景に、校歌の歌詞は谷川俊太郎氏に、曲は息子さんの谷川賢作氏に作っていただきました。詩的な歌詞やメロディーを子どもたちはとても気に入っていて、折に触れて聴くことのできる澄んだ歌声には心を洗われます。

一村一校の環境の中で、学校に寄せる地域の期待は大きく、学校の諸活動に手厚い支援をいただいています。例えば、糸魚川と松本（塩尻）を結ぶ塩の道を歩く遠足。「塩の道の会」の方々が下見も当日もコース案内をしてくださいます。また、地域の方々から様々な地域文化を学ぶ「小谷っ子タイム」では、講師として多くの方に関わってもらっています。地域連携に加え、保育園、中学校との連携にも力を入れています。保小中合同職員会議を定例で年五回行い、職員レベルで実現可能な取り組みをすすめています。

前述した校歌の歌詞に「おたりからはじまるせかい　うみのかなたの　ともだちとともに」という下りがありますが、今年の修学旅行では、縁あって英国大使館を訪問する機会を得ることができました。地域を愛する気持ちを育むと共に、世界に目を向け自分の可能性を拓く子どもたちの姿を願っています。

「あちっこ」とともに

阿智村立
阿智第一小学校
教頭　臼井　宏之

阿智第一小学校は、飯田山本ＩＣに近く、交通の便のよいところにあります。児童数が一六八名で単級の小学校です。阿智村には小学校が五校ありますが、その中では一番大きな小学校です。

阿智第一小学校は昭和五十四年に会地小学校と智里西小学校が統合して誕生し、昨年度開校四十周年を迎えました。

学校教育目標は、「かしこく　やさしく　たくましく」。本年度は、重点目標に①自分の思いや願いを表現でき向上心のある子どもの育成　②相手の気持ちに寄り添った言動ができる子どもの育成③意欲的に粘り強く取り組むことのできる子どもの育成　を掲げ日々の教育活動に取り組んでいます。本校では、理工活動として伝統的に独楽作り（一・二年生は紙独楽、三・四年生はたたき独楽、五・六年生は鉄独楽）を行っています。十二月の参観日では自分の作った独楽を使って独楽回し大会を行い、毎年盛り上がりを見せています。

私は昨年、この阿智第一小学校に赴任しました。小学校に赴任したのは初めてでしたので、最初は戸惑うことばかりでした。日課や諸行事、教育課程などいろいろな違いがあり、ペースになれるまでに時間がかかりました。また、職員数も少ないため、一人ひとりの校務分掌の負担も大きく、夜遅くまで残って仕事をしている先生方もいました。阿智村は「全国一星が最も輝いて見える場所」で有名ですが、残念ながらゆっくりと星を眺める余裕もなく過ごしています。でもかわいい「あちっこ」たちのために、先生方や地域の皆様と力を合わせて、自分ができることを精一杯がんばっていきたいと思います。

魅力ある授業を目指して

長野県総合教育センター
柳澤　大介

長野県総合教育センターには、いくつかの部があり、私は、教科教育部に所属しています。主に、社会科に関わる研修や研究及び調査を担当し、今年で二年目となります。

本年度は、社会科に関わる研修講座を十講座担当しています。小学校、中学校及び高等学校の各分野の基礎講座に加え、応用発展講座の一つとして所外研修も行っています。所外研修「遺跡発掘からの発信」では、県埋蔵文化財センターが記録保存調査を行う長野市の遺跡を訪れました。この講座の

目的は、教師自身が本物に出会い、体験し、五感を通して素材がもつ魅力を感じ取り、その経験を生かした魅力ある授業づくりへとつなげることです。現地では発掘に携わる方のお話をお聞きしたり、発掘体験をしたりしました。また、この遺跡から発掘された本物の土器を使っての接合体験も行いました。専門家の方と関わり、本物のもつ魅力を体と心で感じた先生方は、子どもたちの姿を想像しながら、素材研究を始めていました。このような先生方の姿から、改めて教師自身が問いをもって追究し続けることが、魅力ある授業へとつながることを学ばせていただきました。

総合教育センターの玄関前には「磨かん共に」というセンターの設置理念を込めた石碑があります。それには、学校教育に携わる者、生涯学習に携わる者、幅広く教育に関心をもつ者、いずれも教育への熱意と探究心をもつ者が共に集い、研鑽する場でありたいとの願いが込められています。私自身、安曇野で学ばせていただいたことを糧にして、今後更なる研鑽に励み、尽力してまいりたいと思います。

礎

飯田市立緑ヶ丘中学校
教諭　角田　仁美

初任校として飯田市立緑ヶ丘中学校に赴任し、今年で四年になりました。現在は三年生の学級担任として、子どもたちと共に充実した日々を過ごしています。

本校は『みどりの心』を磨き、自己を知って真理（まこと）を極める緑中生」という学校教育目標を掲げています。『みどりの心』とは、「自己に厳しく、他に温かく」という心です。その理念は、校内だけでなく、地域行事等でも発揮されています。

今年度は、本校の文化祭である緑樹祭が六十周年を迎え、伝統を受け継ぎ更に挑戦し、進化させ、新たな礎を築くことをテーマに生徒会活動を行いました。

生徒会の伝統として長い間大事にしていることの一つに、アルミ缶やペットボトルキャップを収集する資源回収活動の「ポンポン活動」が挙げられます。三十年以上前にスタートしたこの活動は現在も続き、子どもたちは誇りをもってこの活動に参加しています。

近年では子どもたちの主体性を育み、学力向上につなげる教育活動として、話し合い活動に力を入れています。学級での話し合い活動はもちろん、授業の中でも自分の意見を出し合うことを大切に考えています。緑樹祭では、生徒が中心となり、一つのテーマに対して全校で意見交換を行う「全校で語る会」を行いました。今年度は、「真の良い挨拶を目指して」をテーマに、学年問わず多くの意見が出され、一人一人が挨拶のあり方や質について真剣に向き合う時間となりました。

生徒数も多く、活気の中に秩序のある学校です。そんな緑ヶ丘中学校で学べることを大変うれしく感じ、ここで得た経験を自身の礎とし、いずれ安曇野の地で還元できたらと思います。

各種委員会からの報告

【教育課題委員会】

小学校では、来年度全面実施となるプログラミング学習に関わり次の三点について調査・研究を進めてきました。①市内各小中学校及び周辺高等学校におけるプログラミング学習の現状理解と課題の洗い出し②パソコンを利用したプログラミング学習の題材研究③パソコンを利用せずともプログラミング的思考が培える学習指導の模索。

調査・研究を進める中、各小中学校において題材研究や各種研修会を積極的に行いながら全面実施に備えているものの、課題解決に至っていない現状もはっきりしてきました。今後は、限られた授業時数の中、どの教科（題材）でこの学習を仕組んでいくことが有効かを究明していきたいです。

（三郷中　　）

【人権教育委員会】

本委員会では、委員の所属する学校での人権教育の取り組みや実践について、資料や指導案、学習カードなどを持ち寄り、実践発表をしたり、情報交換をしたりしています。持ち寄った資料の中から学年や内容等に配慮しながら、人権教育実践資料集に追加するものを選び、資料を作成しています。

また、本年度も市内各校の人権教育担当の先生方にご協力いただき、「人権に関わる講演会の講師」「活用した視聴覚教材」「読み聞かせや資料として利用した書籍」についてのアンケート調査を実施しました。まとめて各校に配布させていただきます。ぜひ来年度以降の人権教育でご活用ください。

（明科中　　）

【図書館教育委員会】

学校図書館にかかわる司書や司書教諭、公共図書館が連携し、情報を交換する安曇野市学校図書館協議会を、今年度も開催しました。本年度は「調べ学習」をテーマに穂高東中学校で、六月十七日に開催しました。講演会では「調べ学習の導入」～公共図書館と学校図書館の連携～（講師：松本大学の伊東直登先生）のお話をお聞きしました。その後図書委員で「調べ学習入門」～テーマに合わせた本

を選ぼう～というテーマで公開授業を行いました。公共図書館の方に資料収集のご協力を頂き、充実した調べ学習を行うことができました。

（穂高東中　　）

【社会科資料集編集委員会】

安曇野巡検は、目で見て、触れて「郷土に伝わる願い　水を求めて」とテーマを設け、東京電力奈川渡ダム施設見学と梓川頭首工、赤松分水工施設を巡りました。東京電力ホールディングス株式会社の奈川渡ダム所長をはじめ、社員の皆さんや中信平土地改良区連合の丸山さんに講師をお願いして、東京電力奈川渡ダムの施設見学をはじめ、概略についてのお話や梓川頭首工、赤松分水工施設などを見学しました。普段見ることができない奈川渡ダム施設や梓川頭首工での見学は、梓川についての素材研究として大変貴重な経験となりました。多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。

資料については、来年度の改訂にあたり委員一丸となって取り組んでいます。ご協力よろしくお願いします。

（明北小　　）

【キャリア教育委員会】

令和元年度版「進路学習資料集」の編集・頒布とキャリア教育の調査・研究の二つを中心に活動しています。

「進路学習資料集」の編集では、小規模ながらいくつかの高校で改定がありました。それらを含む県内各高校の最新情報や先輩方からのメッセージ等を掲載しました。また、進路指導の学習に役立つページも掲載し、主に中学二年生での活用を想定して作成しました。

キャリア教育の調査・研究では、実践事例をキャリア教育の四つの視点に基づきレポートにまとめています。

（豊科南小　　）

【人物読み物委員会】

本委員会では、教育会のホームページ「安曇野の偉人」を充実させるべく、先人たちについての調査活動を行っております。

本年度は、安曇野出身者だけでなく、安曇野に関わる人物ということで、井口香山、武居用拙尾崎喜八、吉丸昌昭、西沢明花、山田多賀市の六人をとりあげ、その業績を知るための資料作成を進めています。

八月には地域史研究家の中島博昭先生を講師にお迎えし、資料完成に向けて、資料の細部まで、ご指導をいただきました。多岐にわたる業績をわかりやすくまとめて提示するよう作業を続けています。先生方に地域教材の一助としてご活用いただけますように、努めて参ります。

（豊科北中　　）

【木村素衛委員会】

昨年度、日記の判読作業が終わったため、今年度は木村先生について学ぶことと、日記No.１の読みなおしということを中心に進めています。

郷土文化財センターを見学し、安曇野と木村先生とのつながりを学び、資料をもとに読み合わせを行いました。また、判読された日記No.１を改めて読みなおしました。後半の日記に比べて、その日の出来事が主に記されていることがわかりました。木村先生について学ぶことや日記の読みなおしを通して、木村先生の大切にされた表現愛について深めていければと思います。

（三郷中　　）

【郷土文化財センター運営委員会】

所蔵品の管理と紹介、そして郷土文化財センター収蔵品の収蔵品目録データ化を進める為の調査・準備に重点をおき活動してきています。収蔵品目録はナンバリングをどうするかなど、課題はたくさんあります。また、所蔵品を会報「安曇野教育」に毎号掲載して頂いています。

さらに、本年度は安曇野市教育会総集会におきまして、「郷土文化財センターの歩み」と題して発表させていただきました。

また十一月に安曇野市教委文化課と共催で「改元に見る市民生活」を、「安曇野市児童生徒ものづくり展」に合わせて、開催いたしました。

（豊科北小　　）

【展覧会運営委員会】

本委員会では、市内小中学生の学習の成果を発表する場として、次の活動を行ってきました。

【科学展・書道展・図工美術展】

各校に作品を募集するとともに多くの先生方に審査員をお願いし、市内巡回展の作品審査を行いました。

東西南北

「嬉しいブドウ」

先日、地域にお住まいで、福祉施設を利用されている一人の女性が学校にお見えになりました。足が不自由な様子でしたが、介護の方に付き添われながら、わざわざ来校してくださいました。

その方は四名の生徒の名前が書かれたメモを持っていました。生徒たちは総合的な学習の時間に折り紙を学んだことを生かして、福祉施設に交流に行ったのでした。その女性は「ボランティアに来てくれたこの子たちがとにかくいい子で清々しくて感激して」と言い、「皆さんで召し上がってください」と四箱のブドウを置いていかれました。生徒への温かな思いを直接伝えてくださったことの嬉しさを感じながらいただいたブドウは最高の味でした。

よさを認め励ましてくださる地域の方に支えられて生徒が成長していく姿を見るにつけ、地域の方の思いに応えられる学校であり続けたいという思いを強くするこの頃です。

（豊科北中　　）

【市内巡回展】
科学展・・十月～十二月
書道展・・・十月～十二月
図工美術展・・・十一月～一月
それぞれの入選作品が、各学校を巡回しています。学習の成果を確かめ合っていただければと思います。

【市内児童生徒ものづくり展】
教育文化会館大会議室にて十一月一日から十一月五日までの五日間、開催しました。
各校児童生徒より寄せられた、家庭科・技術科・図画工作科・美術科などの作品と、県展・今を生きる子どもの絵展（図工美術）の地方入選作品を展示し、児童生徒の皆さん、保護者の皆様を中心にご覧いただきました。
（豊科南中　）

【会誌委員会】
本委員会は、一一月下旬に「安曇野教育」第十四号の発行を計画しています。
本号より、郷土史家の中島博昭先生に「郷土の先人」として安曇野の文人についてのシリーズを掲載していただきます。巻頭座談会では「グローバル社会に生きていく子どもたちの英語力を育てるために」というテーマで討論をしていただきました。「安曇野の先人等に学ぶ会」では平沢重人先生、「安曇野遺産」では青木弥保先生の、安曇野市文書館に関わる掲載もあります。また「先輩こんにちは」では、片桐和仁先生からお話を伺いました。令和初年度の会誌「安曇野教育」となります。楽しみにしていてください。
（穂高北小　）

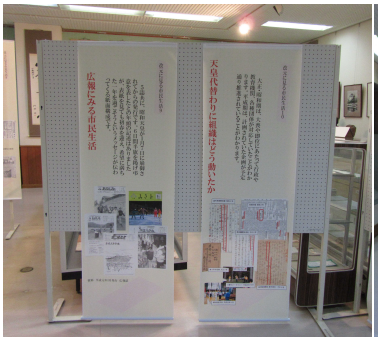
【会報委員会】
教育会の活動を取材し、昨年度同様四回（六・九・十一・三月）の会報発行を予定しています。また、定時総会で決定したことを速報という形で発行しました。総集会や安曇野の子どもを語る会など教育会の活動の様子とともに、会員の皆さんが互いの活動内容を知る機会になればと考え、各種委員会や実技講習会、同好会の活動について紹介しています。郷土文化財センター運営委員会にご協力いただいています「郷土の文化財」や校長先生方に執筆いただく「東西南北」も、引き続き掲載しています。
今後も、教育会の機関紙としての使命を果たすため、会員の皆さんに情報提供をしていきたいと思います。これまで執筆にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。
（明南小　）

【情報委員会】
情報委員会では、今年度も安曇野市教育会ホームページの更新作業を中心に活動しています。会報の掲載では個人情報に配慮して修正し、ホームページ上で使っている安曇野市の写真データの更新に取り組んでいます。安曇野市教育会の会員はもちろん、より多くの方々にとって役立つ内容になるようなウェブページ制作を目指したいと考えています。掲載希望の原稿等ありましたらご相談ください。
各校とも自校ホームページの情報更新にはご尽力いただいていることと思います。ご負担にならない範囲で、引き続きよろしくお願いします。
（穂高西小　）

郷土の文化財　45

本年度の特別展
「改元に見る市民生活」

十一月一日（金）～十一月五日（火）まで、「安曇野市児童生徒ものづくり展」の期間に合わせて昨年度に引き続き、郷土文化財センター展示室で市教委文化課との共催企画「改元に見る市民生活」を開催いたしました。最初の元号「大化」から「平成」まで二四七個の元号があります。「平成」から「令和」になった今年ですが、昭和・平成の時代も「即位礼正殿の儀」、晩餐会・祝賀パレードと新天皇を祝う行事を、安曇野市民は盛大にお祝いしました、という歴史を紹介しました。
（郷土文化財センター運営委員会）



編集後記

「安曇野往来」では、安曇野を故郷とされる先生方から原稿を寄せていただきました。それぞれの地やお立場で、子どもたちや教職員、地域の方々とともに生き生きと活躍されている様子が伝わってきました。
また、今号では「安曇野の子どもを語る会」や各種委員会の取り組みについてもお伝えすることができました。ご協力ありがとうございました。